No.80

＼明日の授業に１ページのエッセンスを／

らいぶ LIVE 創 CREATOR つくりえいた～

２０１９年９月

CONTENTS

●副校長ご挨拶
●プログラミング教育の取り組み
●実践紹介
・図画工作科　「自分なりの“いいな”をめざして」
・生　活　科　「昔の遊び」
・食　　育　「おいしい・楽しい・学ぶ給食時間」
・社　会　科　「子供の社会参画力を育成する授業づくり」
・複式国語科　「『異学年力』を高める複式教育」
・算　数　科　「『比』の学習で割合の理解を深める」
・家　庭　科　「むだなく　おいしく　調理をしようⅠ」
・体　育　科　「めざせ！High Jumper」
●２０１９教育研究発表会・ＩＣＴ活用授業研究会のご案内
●コラム「楽しい複式教育」・編集後記



副校長ご挨拶



中井　章博

昭和 27 年，本校の前身「和歌山大学学芸学部附属小学校」が，研究広報誌「こども」を創刊しています。校長の「創刊のことば」の中に，私共が心得ておかなければならない，とても大切なことばが綴られていました。

> 教育者にとって最も大切なことは子供をほんとうによく理解することであるのは申す迄もありません。ところが，私たちはつね日ごろあまりにも多くの子供達を見なれているためか，とかくすると，子供に対するするどい感覚や驚きを失いがちになります。その結果，とらえているのは概念としての子供であって個々の具体的な子供でなかったり，今日の子供を昨日の子供で解釈したり，Ａの子供をＢの子供で理解したりする誤りにも陥ります。頭の中で，机上で考えた子供，或る法則に形式的にあてはめた子供にならぬ様に私達は自らを警戒せねばなりません。子供と云うイドルから脱して，時々刻々と成長発達する子供の具体相を直視せねばなりません。（後略）　　引用：玉置修，和歌山大学学芸学部附属小学校研究機関誌「こども」創刊号（1952）

67 年前のこの地で，このように綴られた校長の意図，教育の不易，変わらぬ課題，様々な思いが巡り，本校教職員一同，身を引き締めた次第です。

本年度，本校では研究主題を「未来に生きて働く資質・能力の育成～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～」とし，研究に取り組んでまいりました。11 月３日（日）の教育研究発表会，令和２年１月 25 日（土）のＩＣＴ活用授業研究会では，ご多忙のことと存じますが，たくさんの先生方にご参加いただき，ご批正賜りますよう，よろしく願います。

スフィロ



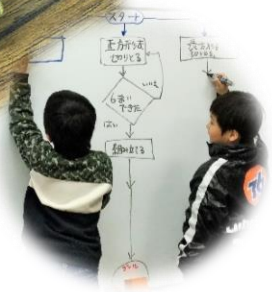
コロコロ転がって動くロボットで，子供達に大人気です。目的の場所まで動かすプログラミングなら，低学年でも簡単にできます。LED で色や形を表示できますし，加速度センサなどもついているので，様々に活用できそうです。球形ロボットならではの動きの読みにくさは，何度もプログラムを修正しながら思考を重ねる学習活動につながります。（中西）



マイクロビット



内蔵センサの種類が多いことから，小さいながら多岐にわたって活躍します。「人が来たら光るライト」「30℃を超せば音がなるアラーム」など，それらのセンサの組み合わせとオプションの拡張キットによってできる可能性は無限大。頭の柔らかい子供達は，たくさんのアイデアを出し，それを成功させようと必死にプログラムを組みます。“Trial&Error”の姿を引き出すことが可能です。（久保）



ここで紹介した機器等は，２０２０年１月２５日（土）に本校にて開催予定のＩＣＴ活用授業研究会でも教材として活用する予定です。

プログラミング教育の取り組み



楽しく学べる！



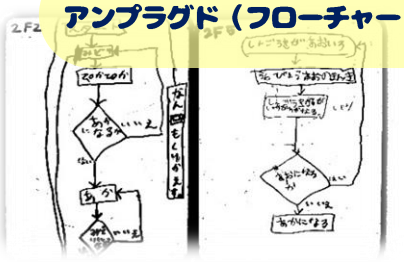
プログラミング的思考を育むための教材

ドローン



ブーンと音を立てて飛ぶ様子に，子供達は興味津々です。自分の考えたプログラムの確認や友だちと意見の共有がしやすく，操作も簡単だったようです。そのため，目標に向かって思考を繰り返し，試行を継続して行う姿が見られました。（中岡）

アンプラグド（フローチャート）



考えていることを可視化できるツールでもあります。モーニング・ルーティンの可視化に取り組んだところ，自分の活動を細かく見出し，それらを見直す子どもの姿が見られました。機器を使わず，どの教科でも「思考の流れ・活動の流れ・手順」などを整理するために有効です。また，どの学年でもプログラミング的思考の基礎を養うために取り組むことができます。（南）

信号機は，子供達の身近にあり，交通安全のため，日常生活に欠かせません。そんな信号機も，プログラミングで動作していることを実感できます。列車を安全に運行するため，先発の列車が通り過ぎると赤に変わるプログラムを考えて実行する学習活動を行いました。（中西）



アーテックロボ（信号機）

らいぶすくえあ#1

図画工作科
5年C組担任
西原 有香莉

自分なりの“いいな”をめざして
～形の世界を楽しむ活動をとおして～

「“形”で思い出すものは？」

こう問われると，何を思いつくでしょうか。子供たちに問うと，四角形・ハート・星などが出てきました。突然，そのような問いを投げかけられると，私もそのような形を思い出します。

そこで，身の回りにあるたくさんの“もの”に目を向けることにしました。鉛筆，ランドセル，水筒，絵の具セットに入っている筆洗，パレットなどがあり，それらは用途に合うよう全て違った“形”をしています。身の回りにはあらゆる“形”があり，そのような日常にあるものを形として認識することで，“形”の多様性への気付きにつながるのではないかと考え，以下の実践に取り組みました。

●身の回りの“もの”を“形”に変身させよう

まず，身の回りにあるものを，アルミホイルで包みます。子供たちは，はさみや鉛筆，コンパス，家から持って来たフィギュアや洗濯ばさみなどを包んでいました。日常的に目にしているはずのものが，銀色の形に変身していきます。アルミホイルで包む過程では，視覚と触覚の両方を使って，ものの形を認識することができます。

ここで重要なのは，“きっちり”包むということです。アルミホイルで包んでしまった後，中に包み込まれているものの形が浮き出るよう，鉛筆の側面などでこすります。そうすることで，細部の凹凸に気付くことや改めてそのものの形を知り，楽しむことができます。

〈振り返り〉
・アルミの「形」を見てみると，キャップとかが「こんな形をしていたんだ！」とわかったので，もっといろいろなものの「形」を調べて発見していきたいです。
・アルミホイルに包んだら，形がより見えやすく，わかりやすくなった。形が具体的に見えた。

振り返りから，身の周りにある「形」の多様さや，おもしろさへの気付きがあったことが伝わります。

出来上がったアルミホイルで包まれた形を机に並べていたのですが，休憩時間や放課後なども，友達の作品をながめ，「これ，何を包んだの？」と対話する姿が見られました。

●組み合わせて新しい形をつくろう

次は，できた形を積み木のように組み合わせ，新たな形をつくります。（図１，２）つくるのは，何にも見立てられない抽象的なオブジェのようなものです。


図１：形を組み合わせる姿

ある子供の活動に着目してみると，「形を組み合わせる→眺めてみる→もう少し変えてみる→微笑む」という姿が見られました。この微笑みは，自分なりに“いいな”と思う形を完成させられたことによる満足感が得られた姿なのではないかと感じています。“いいな”と思う形に向けて，パーツを重ねたり外したりするなど，組み合わせ方を試行錯誤し続ける姿も見られました。


図２：完成した作品

そして，出来上がった形が一番かっこよく見える角度を探すため，iPad で様々な方向から撮影しました。iPad を通して自分の作品を様々な方向から見たり，いくつも撮影し，見比べたりする姿が見られ，形の世界を楽しむ姿が見られました。

〈振り返り〉
・アルミで包んだ「形」もすごくきれいだけど，その「形」を積み重ねたり，置くのをななめにしたりして作品をつくると，アルミの「形」がもっときれいに見えて，いい作品に見えたし，また新しい「形」を発見しました。

この振り返りからも，「形の造形のよさ」を感じると共に，それぞれの「形」に関する感性に基づいた探究が行われていたと考えています。

子供たちは，それぞれに異なる感性をもっています。その感性を大切にして引き出し，共に生かす活動を考えていきたいと思います。

附属人

#感性，形，いいな！

子供たちの豊かな発想から生み出される活動や作品を見るのが大好きです！

子供たちが思いをもって，豊かに発想を広げながら活動できるような，題材を考えています。



y2486@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ＃2

生活科
校内教頭
上田　恵

昔の遊び
～世界とつながろう～

〇昔の遊びを調べて紹介し合う

お母さんお父さんだけでなく，子供たちの周りにいるいろんな大人の人に，「子供の頃，好きだった遊び」を聞くことにしました。

すると，お母さんと一緒に福笑いを手作りしてくるなど，子供たちは懐かしい遊びをいっぱい仕入れてきました。紙飛行機，あやとり，花いちもんめ，コマ回し，あんたがたどこさ，ダルマさんが転んだ…。

紹介し合うと，「あ，それ知ってる。僕も聞いた。」と共通の話題にもなり，補足し合うようになりました。

昔の遊びは，休み時間にも花いちもんめやコマ回しをするなど，子供たちを夢中にさせました。

コマ回しやあやとりなどは，練習することで技術が上がるので，コマ名人，あやとり名人が友達からの尊敬を集めました。

〇韓国の遊び

学級には，海外経験のある子供や親戚に海外の方がいる子供が複数人おり，その子たちも家庭で聞いてきた遊びを紹介しました。日本の伝統遊びなら，「ええと，



ええと。」と説明に詰まっても，他の子たちはすぐに想像できるのですが，韓国の遊びはなかなか伝わりません。「そのお姉さん，来てほしいなあ。」と，本人を招待することになりました。

来てくれた韓国の方は，韓国の話をしてくれました。国旗の意味，長幼の序が厳しくて年下が上の者を呼び捨てにできないこと，父親が食事を口に運ぶまでは家族は食べ始めないことなど…。１年生には難しかったようですが，世界を知るよい機会になりました。

教えてくれた「タッチチギ」という遊びは日本のメンコとそっくりです。「コンギノリ」は，日本のお手玉を小石でするような遊びでした。

〇中国の遊び

中国人のお母さんも招待しました。



「チエンズ」という遊びは，羽根を地面に落とさないようにみんなで輪になって蹴り合います。「沙包（シャーパオ）」はお手玉のドッジボールのようでした。

〇似ていること，違うことを発見

ほかにもインドやシンガポール，マレーシアなどの遊びを紹介したり，体験したりしました。

伝統遊びは国によって違いますが，意外によく似ていたり，全く同じだったりすることがあります。

子供たちは，似ていることを見つけて「おんなじや。」と，喜びました。

世界を身近に感じる取り組みを，これからも続けていきたいです。

附属人

＃世界の遊び，国際理解

「めいっぱいの遊びには，
めいっぱいの学びがある」
焦らず急がず，遊びをとおして子供たちを育てていきたいですね。



megumisg@wakayam-u.ac.jp

らいぶすくえあ＃3

食 育

栄養教諭
神山 求実

おいしい・楽しい・学ぶ給食時間
～異学年・異年齢交流給食の実践から～

◎１・２年生の交流給食
～生活科とのカリキュラム・デザイン～

給食時間の直前である３・４時間目の生活科と給食時間を活用した“異学年交流給食”を紹介します。一緒に仲良く給食時間を過ごすだけではなく,『給食指導』の場として，子供たちが生き生きと学習していく様子がうかがえます。

★春の給食

４月の１年生は，初めての給食で不安がいっぱいです。学級活動の時間に，給食のルールやマナーをみんなで確認し合いました。共有していくには，まだまだ時間がかかりそうです。進級したばかりの２年生は，１年生の時にうまくできていた給食の時間ですが,「これって，前の学級ではこんなやり方だったけどね。」と友達との間にちょっとしたズレが起こっています。疑問を抱えながら,周りの様子を観察しているようです。

両者の不安を少しでも和らげようと「生活科・道徳・食育」それぞれの枠を超え，カリキュラム・デザインを行いました。

★２年生「給食名人になろう」

２年生の子供たちの給食時間の問題や疑問を解決していくための手立てとして,「お箸の正しい扱い方」「食事中のマナー」「いただきます・ごちそうさま」「赤・黄・緑ってなあに」の学習に取り組みました。子供たちは，互いに確認しながら，話し合いが始まり，今までの経験や豆知識などが行き交いました。

栄養教諭から「すごいね！みんな給食名人になれるね！」「実は，１年生が給食のことでまだ困っているよ。」と声かけをしました。すると，２年生の子供たちは，「去年，教えてもらったよ。」「１年生に教えてあげたい！」と一斉に声を上げました。

★給食名人大作戦！

２年生は，給食交流日の発表会に向けて，学習したことを１年生に分かりやすく伝えようと準備を始めました。「１年生には，実際にお箸を持ってもらった方がいいね。」「紙芝居も用意しようよ。」「クイズも出そうよ。」と意欲的でした。




給食名人たちの発表会




１・２年生の交流給食

★中学生から学ぶ給食時間

附属中学校の１年生との“異年齢交流給食”を紹介します。中学生は，家庭科の時間に『給食メニュー作り』と『食の指導』を学習しました。中学生が小学生のために「思いや願い」を込めた献立が，調理員さんの協力を得て「おいしい給食」となります。交流給食の日には，中学生による食に関する指導を，小学校の各学級で実施しました。

★異年齢の成長ぶり・・・

中学生は，小学校生活を思い出したり，自分自身の成長を喜んだり，子供たちの姿を温かい目で微笑ましく追ったりしていました。

小学生は，中学生からの食の情報が日頃の給食時間の指導とは異なったもので,“ちょっと背伸び”できる内容がとても新鮮で，興味深いものだったようです。




中学生との交流給食

附属人

＃異学年，交流給食，学ぶ給食

授業の陰には“おいしい・安全・安心”な給食づくりしてくれる調理員さんがいます。

みんなで「おいしい・楽しい・学ぶ給食時間」のしかけを一緒に考えましょう。

kumi@wakayama-u.ac.jp



らいぶすくえあ#4

社会科
3年C組担任
中山 和幸

子供の社会参画力を育成する授業づくり
～提案・参加型の学習で子供の社会参画力を高める～

1．はじめに

学習指導要領（2008 年告示）に改訂の要点として「社会参画」が含まれたことから，社会参画を授業構成の原理とする社会科授業づくりが提唱されるようになりました。また，学習指導要領（2019 年告示）においてもその理念は引き継がれ，よりよい社会の形成に参画する資質・能力の育成の重要性が謳われています。

本稿では，「よりよい社会の形成に参画する資質・能力」を「社会参画力」と捉え，社会参画力の育成をめざした授業実践についてご紹介します。

2．社会参画力を育成するための３つのポイント

社会参画力を育成することができる授業とは，一体どのような授業なのでしょうか。私は，以下の３つのことを大切にして授業づくりを行いました。

（１）地域課題の教材化
（２）地域人材の活用
（３）「提案・参加」の過程を重視した単元構成

3．授業の実際

対　象：第４学年 28 名（男子 14 名　女子 14 名）
単元名：「海洋プラスチック問題対策本部」

（１）　地域課題の教材化

地域課題を教材化するのには，いくつか理由があります。その最も重要な理由の一つが，子供にとっての身近さです。ここでいう身近さとは，物理的な身近さや心理的な身近さの両方を意味します。子供にとって身近であることは，課題解決が自分事になりやすいというよさがあります。本実践では，和歌山市加太地区にある友ヶ島に流れ着くプラスチックごみに着目し，現在，世界中で問題視されている「海洋プラスチックごみ問題」を教材化しました。

（２）　地域人材の活用

地域には，その道のプロと呼ばれる人材がいます。わたしたち教師の専門性には限界があります。そこで，その道のプロと呼ばれる方々と教育の目的を共有し，連携することで，教育の効果を高めることができます。特にこれまでの実践から，知識の定着，学習意欲の向上，ふるさとに対する誇りと愛情の涵養などに効果があることがわかってきました。本実践では，和歌山市役所環境部，洗剤会社Ｋ，コーヒー専門店Ｓと連携しました。



〈和歌山市役所環境部〉
海洋プラスチックごみ問題のメカニズムや和歌山市のプラスチックごみの処理方法について教えてもらいました。



〈洗剤会社Ｋ〉
洗剤会社Ｋが行っている，プラスチック容器ごみを減らすための工夫について教えてもらいました。



〈コーヒー専門店Ｓ〉
コーヒー専門店Ｓが行っている，使い捨てプラスチックごみの減量の取り組みについて教えてもらったり，一緒にプラスチック問題の解決方法を考えてもらったりしました。

（３）「提案・参加」の過程を重視した単元構成



問題の解決策を考えるだけでなく，実際に問題の解決に向けて行動することが，より確かな「社会参画力」の育成が図れるのではないかという考えのもと，単元の終末に問題解決策を実際に行動に移すことを位置付けます。これを「提案・参加」の過程と呼んでいます。本単元では，加太地区にある友ヶ島まで出向き，海岸クリーンを行いました。拾っても拾ってもなくならないごみを目の当たりにし，さらに問題意識が深まった様子がうかがえました。また，小学生の自分たちであっても社会に存在する問題の解決に向けてできることがあるという手応えを感じた様子もうかがえました。このような実践を繰り返し行うことで，子供たちの社会参画力は育成されていくのではないかと考えています。

附属人

#社会参画



社会科の授業を中心に子供の社会参画力を育成する指導の在り方を探っています。お気軽にご連絡ください。

nakakazu@wakayama-u.ac.jp

国語科
5・6年F組担任
宮脇　隼

「異学年力」を高める複式教育
～物語文をとおしたカリキュラム・デザイン～

複式学級だからこそできるような授業，複式学級でなければできない授業づくりを意識し，子供達に確かな力をつけることをめざしています。

特に子供達に大切にしてほしい力を「異学年力」としました。「異学年力」とは，自分と異なる他者を受け入れることや，協働的に学ぶこととしています。単式学級にも当てはまることですが，大きく違うのは，近くに異学年の学びがある環境だということです。

子供たちが身につけた知識をこれからの社会で発揮する場は，同級生ばかりの環境とは限らず，異年齢でのグループになることが多いでしょう。その際，異年齢で意見を交流することの価値を知り，他者と意欲的に関わる力が「異学年力」であり，複式の学びの場がとても有効です。

そんな「異学年力」を高めるために，国語科物語文を教材として取り組みました。

●複式におけるカリキュラム・デザイン

本校の研究テーマと関わり，カリキュラム・デザインを行う上で大切にしている視点が３つあります。

①教科横断的
②教科内での系統性
③異学年との関連（複式学級における）

これらの視点でカリキュラム・デザインを行うことで，本当の問いが生まれ，探究する子供が育ちます。また，一つの単元で完結するような力ではなく，教科や教材を越えて発揮できる能力が身につきます。

さらに，複式学級では３つ目の視点が重要です。これは，私自身が大切にしている「異学年力」の形成とも大きく関わっています。「異学年との関連」について実践例を交えながら以下に紹介します。

●実践例 単元名：額縁構造をとらえて読もう

５年生「わらぐつの中の神様」　６年生「やまなし」

本実践で扱った教材は，どちらも額縁構造で書かれた作品です。この二つの教材を並べた単元を設定することで，物語文の構造に目を向け，額縁構造の特性や効果について考えられるようにしました。また，子供達が自然と文章構造に目を向けられるよう，課題を「この作品の主人公は誰だろう？」としました。登場人物に寄り添った読みから，作品の外側から文章構造を理解するための読みに変わると考えたからです。同時に，総合的な学習の時間で取り組んでいる劇の発表と関連させ，脚本づくりに生かそうとしました。



実際の授業では，異学年が交流する場面で，物語の主人公をとおして額縁構造の特性について話し合うことができました。

５年Ａ児：がまくんやったら，最後かえるくんが手紙くれて喜んでたから，マサエもみったぐないって思ってたけど，最後いいなって思ったから，がまくんも変化したし，マサエも変化したからマサエが主人公。
６年Ｂ児：（主人公は）おみつさんで，６年Ｃ児が言った昔の部分にマサエがいないから。
５年Ａ児：今の話でマサエが（わらぐつを）嫌って言って，それがきっかけで，昔の話になったからマサエ（が主人公だと思う）。
６年Ｃ児：きっかけを作る人が主人公なんですか？それなら，スイミーだったらマグロが主人公やん。
５年Ａ児：スイミーは，最初仲間を食べられて悲しかったけど，最後まぐろを追いかけて元気になったから，心情曲線で表したら，（中略）気持ちが変化したから（スイミーが）主人公だと思う。

これまで，「主人公」とは作品内においてどのような人物を指すのかを丁寧に共有する，もしくはみとっておくことが必要でした。しかし，既習の教材を用いることで，これまでに学習した知識と関連させながら意見をもつ子供や異学年でそれぞれの学びを主体的に交流する子供の姿を見ることができました。今後も，異学年が関わることで深まる学習を行いたいと思います。

附属人

＃物語文，複式，異学年

複式学級における「異学年力」を高めるための実践は，11 月３日の教育研究発表会でも行います。ぜひ，授業を見ていただき，たくさんのご意見をいただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

jun3804@wakayama-u.ac.jp



らいぶすくえあ#6

算数科
6年B組担任
小谷　祐二郎

「比」の学習で割合の理解を深める
～活用を促すカリキュラム・マネジメントにより～

1　「比」の表し方は簡単！？

小学校算数科最難関単元といわれる「割合」は，５年生で学習します。実際「割合は苦手だ。」「難しい。」という子供は少なくありません。その「割合」を学習した後，６年生で「比」を学習します。２つの数量の大きさを割合で示したものが比であることを考えると，同じように苦戦することが予想されますが，実はそうでもないという印象がありませんか。「比は簡単。」「早く比の授業になってほしい。」という声はこれまでも何度も聞いてきました。「割合」や「単位量あたり」が基準量に対する比較量を表した大きさであるのに対し，「比」はどちらかを基準量とする必要がなく二量の関係を表すことができます。基準量と比較量を決定しなくても表せる比が簡単だと感じることにも納得ができます。「だったら，割合の苦手意識を比で乗り越えさせられないか。」これが，私の問題意識となりました。

2　授業の実際

授業開始後すぐにスライドを示しました。（図１）

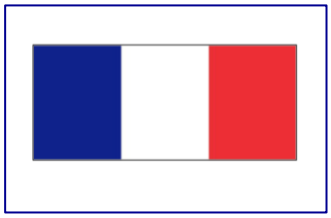


図１

ロシア？オランダ？等という声とともにフランスという声が聞こえてきました。「そうだね。よく知っているね。」と言って先に進もうとした時，一人の子供がつぶやきました。

さゆり：ねえ，なんかおかしくない？

この時点では，さゆりが何をおかしいと言っているのか分からない子供がいます。「おかしくないよ。フランスに決まっているよ。」と得意気に話そうとする子供もいます。

教　師：そうそう，フランスで間違いないよね。

さゆり：そうじゃなくて，…なんか横に長くない？

さゆりの言葉に周りの子供も一斉に話し始めました。「ほんとだ，なんだか横に引っ張った感じがする。」「本物の国旗はもっと縦も長くて…。」「先生，本物のフランス国旗調べていい？」という子供の言葉から，「では，本物のフランスの国旗はどれでしょう。」と言って次のスライドを示しました。（図２）

「あれだよ。」「あの下の…。」「真ん中は，絶対ちが

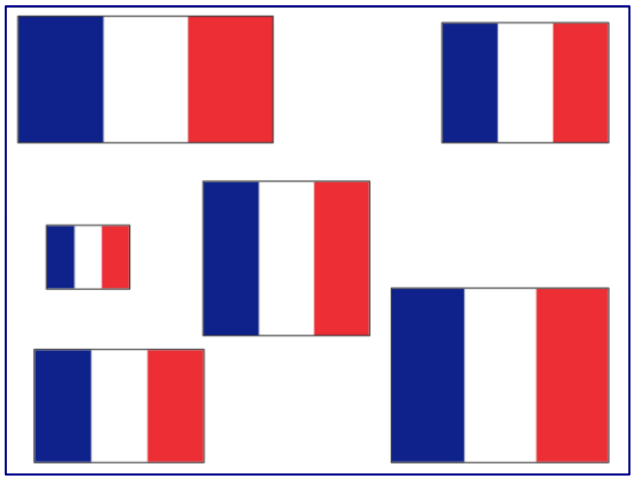


図２

う。」等，問題意識が醸成した子供たちは，比べる思考スキルを働かせてどんどん対話していきます。しかし，どの国旗の話をしているのかはうまく説明できません。位置を示して言い表すことができたとしても「どうしてその国旗が本物だと思うの？」と問い返せば，子供たちは国旗の縦と横の長さに着目します。ワークシートを配布し実測した長さで国旗を説明する子供たちに「もっと簡単に表す方法があるよ。」と言い「比」を教えました。

3　これも割合！？

子供たちに本当のフランス国旗をスライドで示し，その長さも実測すると，当然図２の実寸と異なります。「えっ，正解はなかったってこと？」と聞くと「違うよ。長さは違うけど，縦と横の長さの関係が同じってことだよ。」「当たり前だよ。これだって本物の国旗と違うのだから。」等と言葉をつないでいました。

「ねえ，その縦と横の関係って今まで習った言葉で言うと？」と聞いたところで「割合！」と気付いた子供の言葉を共有しました。

4　子供の気付きを引き出す教材研究

理想としては，子供自身で「比」と「割合」をつなげてほしいと考え実践しましたが，私が声をかけて気づかせる手立てを講じました。子供がつながりに気付くことができるために教材研究を繰り返し，子供自身が学びをつないでいけるような授業をめざし，今後も実践していきます。

附属人

#算数，授業研究，カリマネ



「しなければならない」「仕方なく」ではなく，「考えたい」「解決したい」が溢れる算数授業を一緒に考えましょう。教材研究，授業づくり，お手伝いさせていただきます。お気軽にご連絡ください。

kotani@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ#7

家庭科
家庭科・書写専科
静川 郁子

むだなく　おいしく　調理をしよう Ⅰ
～ゆで名人になろう～

●５年生の子供たち

４月，授業開きに行ったガイダンスでは「６年生の終わりには，おいしい料理をお母さんに食べさせてあげられるようになりたいな。」とワクワクしていた５年生です。

お湯を沸かし，お茶をいれる学習では「茶葉によって，おいしくいれる湯の温度が違う」という知識を「比べる」という思考スキルによって獲得していた子供たちです。

●持続可能な社会の担い手を育てる



「食材を目的に応じたゆで方ができる」という学習目標に加え，調理という具体的な生活場面で，水の使い方やごみの捨て方をどのようにすればよいのかを考え，実践できる子供になって欲しいと考えました。そのための手立ての一つとして，各グループで出たごみの総量を量り比べました。ごみの総量が少なかった班の子供は，「ごみの水気を切ってから捨てたよ。」「じゃがいもの皮は，茹でてから剥いたよ。食べられるところが全然ついてなかった。」と，みんなに話していました。

●思考しながら行う調理実習



じゃがいもとキャベツを，熱の伝わり方を確かめながら茹でました。竹串と温度計，ストップウォッチを使い，やわらかさと温度の変化を調べました。

以下は，実習後の授業記録の一部分です。「どうして野菜によって茹で方が違うのか」を話し合っています。

紀子：自分でもよくわからなくなってきたけど…育ったところが違う。じゃがいもは土の中。キャベツは地上，土の上。性質が違う。だから，茹で方が違う。

隆史：付け足しで，土の中やったら，細菌とか多いから，ちゃんと茹でなかったら，お腹を壊す。栄養が多いのと少ないので違う。すぐ熱で壊れてしまう。熱に強いのとかで違うと思いました。

朝日：面積について考えた。じゃがいもって丸っこくて，中身が詰まってるやん。キャベツはそれに比べて大きいやん。熱に当たるところが，キャベツの方が多い。高温じゃなくて，ぬるいのだったら長くしないと。長く茹でると，ふにゃふにゃになるから。

勝哉：じゃがいもの場合やったら，分厚さが太いやん。キャベツは薄いやん。朝日ちゃんの面積と同じ。

綾香：朝日ちゃんと違う意見で，キャベツの大きさって言ってくれたと思うけど，じゃがいもは切ったやん。切ってから入れて，じゃがいもは大きいけど，切ったら小さくなって，重さとかも…。

●探究力と省察性

紀子は，理科で得た「植物の育ち」に関する知識とつなげて茹で方を考えています。また，朝日は，熱が加わる部分について考えています。これも，理科「ものの温まり方」で得た知識を活用・発揮させていると考えられます。子供たちは，対話の中で深い学びを実現させていると捉えられるでしょう。

一方，綾香は「切り方によって，ゆで方も変わってくる」と，新たな視点で考え始めています。友達の発言を聞くことで省察性が働き，より汎用的な知識の獲得へと学びが深まっています。

今後も「なぜ，そうするのか」と，生活事象の根拠を明らかにしながら授業づくりをすすめます。

附属人

＃ 持続可能な社会，思考スキル



11月3日（日）の教育研究発表会でも，「むだなく　おいしく　調理をしよう Ⅱ～米飯とみそ汁～」の授業を公開します。子供たちが，家族や栄養教諭に聞いた工夫を生かし，無駄なく，おいしく味噌汁を作る計画を立てます！

ikukon@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ#8

体育科
5年B組担任
則藤　一起

めざせ！High Jumper
～５ＢＨＪＳ指数を使って～

●「自分は跳べない」から「自分は跳べる！」へ

個人種目は，自分の力と友だちの力を比べ易く，その記録だけで「勝った負けた」「できたできなかった」を判断しがちです。しかし，子供達生まれもった力は違いますし，それぞれのレディネスも違います。「どうせ跳べないし・・・」ではなく，単元をとおして「自分は跳べる！」という思いをもたせたいと考え，『ＨＪＳ指数※1』を用い，子供一人一人の目標を明確化することにしました。しかし，その目標記録はとても高く，子供たちと相談し，５ＢＨＪＳ指数※2を設定し，取り組むことにしました。

●いざジャンプ！

第１時活動後の子供達の思い

助走の方向
・前からだと足がバーに当たる。跳ぶ距離が増える。 ・ななめに跳ぶ。
踏み切り位置
・ギリギリで跳ぶ。
踏み切り方
・足を高く上げ，勢いよく，横から跳ぶ。 ・どちらかの足を上に上げ，残っている足を強くける。 ・８の字のように，片足から跳びにいく。 ・バーに当たりそうな足を先に上げ，つま先を上げる。 ・頭を引っぱられた感じで足を高く上げる。 ・跳んだあと，反る。体を横に寝る感じ。
助走の距離
・助走は長い方がいいの？

これらの思いを取り入れ，①助走の方向，②踏み切り方，③助走距離を学んでいく学習過程とし，第２時に提示しました。初めからあまり助走距離をとらないように考え，マットを外側に配置し，内側から外向きに助走して跳び越すような場を設定しました。助走距離の学習では，その効果から約７歩以下で跳ぶ子供が多く見られました。

「助走は長い方がいいの？」という子供の問いを解決するために“速さや距離は大事か”と考えさせました。ほとんどの子供が，“速すぎても遅すぎてもあかん”と発言していましたが，実際に試してみることが大事だと考えました。しかし活動を始めると，歩数だけではなく歩幅についても考え始め，“ややこしい！”となってしまいました。考えることが多岐にわたってしまい，焦点化できなかったことが理由です。

第２時に提示した学習過程をそのまま進めていくのではなく，子供の活動や思いをとおして，“今日は何を解決したいのか”を考え，課題としていく必要があると感じました。子供たちは，「どんな風に助走するのか？」について考え，試行錯誤し，活動に取り組み続けました。最後に「助走で大事なのは跳ぶことにつなげることで歩幅が大きくなってしまっては踏み切りにつながらない」と，最後の一歩につながる言葉が出ました。



●５ＢＨＪＳ指数の実際

	垂直跳び(cm)	身長(cm)	5/11 身長(cm)	５ＢＨＪＳ指数(点)
Ａさん	40	158	71	**111**
Ｂくん	41	128	58	**99**
Ｃさん	17	140	63	**80**

5BHJS 指数(点)	第２時	第４時	第６時
Ａさん	60	73	73
Ｂくん	102	115	127
Ｃさん	41	100	129

Ａさんは，垂直跳びがよく跳べたので目標指数が高くなりました。友だちと活動を工夫しましたが，最後まで目標を超えられませんでした（最終 100cm）。Ｂくんは，運動の感覚もよく，初めから 100 点を超していたので，本当のＨＪＳ指数に向かって取り組みました（最終 110cm）。Ｃさんは，垂直跳びが 17cm と，運動の苦手な子供ですが，友だちとかかわりながら一生懸命取り組み，目標指数を大幅に超えました（最終 85cm）。

ＨＪＳ指数は，垂直跳びで割るので，Ｃさんのように運動の苦手な子供は，少しでも目標を超えるとグンと指数が上がり，とても嬉しそうでした。

※1 HJS 指数：（跳躍高－1/2 身長）÷垂直跳び×100
※2 5BHJS 指数：1/2 ではなくて，5/11 身長としたもの

附属人

#NORINPIC FUZOKU 2019

総合的な学習の時間において，「コオーディネーショントレーニング」に取り組み，身体の動かし方を考えています。

そして，今年は「NORINPIC FUZOKU 2019」もを開催しています。ステッカー配布中！！



norifuji@wakayama-u.ac.jp

2019教育研究発表会

2019年11月3日(日)

未来に生きて働く資質・能力の育成（２年次）

～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～



◇22本の授業を公開！

◇カリキュラム・マネジメントを意識した単元構成

◇探究的な学びと活用・発揮ができる授業づくり

全体講師　國學院大學教授　**田村　学**　先生

・本研究会の詳細につきましては，本校ホームページにアップしてまいります。学年，授業者，単元（題材）名などは，そちらでご確認ください。
・事前申込を開始しています。右の２次元コードからアクセスし，お申し込みください。

http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/kenkyukai/

ICT活用授業研究会

8本の公開授業！
座談会とプログラミング体験
豊田先生の全体講評

2020年1月25日(土)



全体講師

和歌山大学教職大学院教授

豊田　充崇　先生



※印のついた機器について，本誌で紹介していますのでご覧ください。

1年
情報モラル
授業者　田中千映

3年
ネット依存予防
授業者　中山和幸

5年
データサイエンス
授業者　則藤一起

6年
情報活用
授業者　平井千恵

2年
フローチャート※
（プログラミング）
授業者　南　拓哉

4年
スフィロ※
（プログラミング）
授業者　中岡正年

5年
ドローン※
（プログラミング）
授業者　西原有香莉

1・2年複式
アーテックロボ※
（プログラミング）
授業者　中西　大

コラム 楽しい複式教育



縦のつながりが子供達の成長を促し，主体的に学ぶ子供の姿が日常的に見られます。
本校では，「学び方から広がる」をテーマに，複式教育の研究に取り組んでいます。

子供達が「学び方」を身につけると，主体的な学びが加速します。複式教育には，教師がどちらの学年も直接指導しない同時間接指導の時間があります。教師は，子供の支援が必要な瞬間を見逃さず関わることができます。





課題や友達の発言など，学習の流れを板書する「記録」の役割があります。誰が発言したか分かるようにし，立場や理由を色分けするなど，１年生から取り組んでいます。話の内容を要約する力につながります。

「司会」は，授業のリーダーで，話し合いの中心になります。課題に合った学習活動を選び，活動時間を決めて進めます。同じ考えをまとめたり，全体の様子を見て指示したり，発言をつないだりします。友達の意見を引き出そうとする上手な聞き方ができるようになります。





１～６年生全員で給食をいただく，週１回の「複式ファミリーランチ」では，高学年が中心となって配膳します。他にも，各学年で考えた役割を果たす活動を設定することで，どの学年も先頭に立ってがんばります。



複式縦割り班で，責任をもって野菜作りをしています。下学年との関わりが頼もしく，嬉しい瞬間です。

FROM EDITORS

新しい節目を迎えた『LIVE 創 REATOR』には，「生き生きと本物を創り出すひと」という意味が込められています。私たちが創り出す本校の取り組みをご紹介しています。

今年度は，１２月にも発行を予定しています。本校の行事・授業・提案・取り組みにつきましては，ホームページでの発信も充実しております。日々の実践を考える情報源としていただければ幸いです。ぜひ，ホームページも併せてご覧ください。

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1
ＴＥＬ　073-422-6105
ＦＡＸ　073-436-6470
E-mail　fuzoku@ml.wakayama-u.ac.jp
ＵＲＬ　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp

Mail

HP



研究広報部員：中西　中岡　糸我　静川　中村　川端
デザイン&編集：D@i'z Art Image

研究広報部